

今日のキーワード 豪雨や猛暑が影響した7月の『街角景気』

「景気ウォッチャー調査」、いわゆる『街角景気』とは、景気に敏感なタクシー運転手や小売店、メーカー、輸送業、広告代理店など、地域の景気の動きを敏感に観察できる立場にある約2,000人を対象とした調査です。7月の『街角景気』では、平成30年7月豪雨や今夏の異例の暑さによる景気への影響が見られました。内閣府の基調判断からは、こうした一時的な下押し要因はありながらも、景気は底堅いと見ることができそうです。

ポイント1

現状判断DIは前月比▲1.5ポイントの46.6 平成30年7月豪雨等の影響で複数地域で大幅な低下

- 7月の『街角景気』によると、現状判断DIは前月比▲1.5ポイントの46.6（季節調整値）となりました。項目別では、家計動向関連、企業動向関連、雇用関連の3項目全てが前月から低下しました。また、家計動向関連のうち、サービス関連は同▲6.9ポイントと大きく落ち込みました。
- 今月の現状判断DIの低下には、西日本を中心に大きな被害が出た平成30年7月豪雨が影響しました。地域別では、中国で同▲6.5ポイント、四国で同▲5.6ポイントとなったほか、北関東では同▲6.0ポイント、沖縄で同▲5.0ポイントと低下幅が大きくなりました。

ポイント2

ウォッチャーのコメントを分析 今夏の暑さは全体としては景気にマイナスか

- 街角の声をより客観的に分析する、当社独自のテキストマイニングによる分析手法（*）によると、現状については、ポジティブな単語の使用比率は横ばいでしたが、ネガティブな単語が増加しました。
- 「豪雨」に関する単語が大きく増加したほか、「猛暑」や「酷暑」といった異例の暑さに関する単語の使用頻度も大きく増加し、今夏の暑さが景気に与える影響をうかがわせる結果となりました。一部商品の販売や売上の好調さへの言及が見られた一方、消費マインドの減退や客足の鈍さを指摘するコメントも多く、全体としては、今夏の暑さは景気にはマイナスの影響がやや大きそうです。

（*）テキスト（文書）をコンピュータで探索する技術の総称。典型的な方法として、テキストにおける単語の使用頻度を測定し、テキストの特徴を統計的に分析・可視化することで、背後にある有益な情報を探ることができます。



今後の展開

景気は一時的な下押し要因がありながらも底堅いと見られる

- 先行き判断DIは前月比▲1.0ポイントの49.0となりました。テキストマイニングでは「豪雨」や「猛暑」に加え、「高騰」の使用頻度が増え、農作物等の価格高騰への懸念がうかがえます。内閣府は、先行きの基調判断を「人手不足、コストの上昇、平成30年7月豪雨の影響等に対する懸念もある一方、引き続き受注、設備投資等への期待がみられる」とまとめました。一時的な下押し要因はあるものの、景気は底堅いと言えます。

ここも
チェック! 2018年8月8日 今夏は記録的な『猛暑』! 景気への影響は?
2018年8月6日 男女の『平均寿命』が過去最高を更新

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。